トヨタミシン

取扱説明書

型式：TM2D・H
　　　TM2D・L

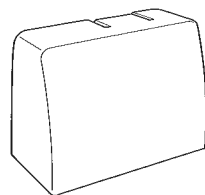
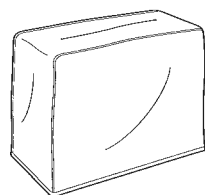
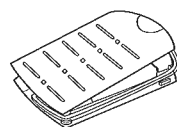
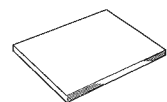
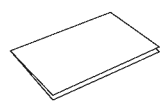
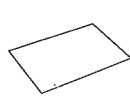
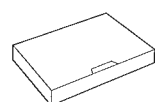
TOYOTA
TMシリーズ

- ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 取扱説明書は、お読みになった後もいつでも取り出せる場所に大切に保管してください。
- 他の方にお譲りになる場合は、この取扱説明書もいっしょにお渡しください。

付属品

箱をあけたら、以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの購入店にご連絡ください。

■梱包箱の中に入っている付属品

●ハードケース（型式 TM2D・Hのみ付きます）

●ソフトケース（型式 TM2D・Lのみ付きます）

●フットコントローラー（型式 TM2D・Hのみ付きます）

●取扱説明書

●クイックガイド

●保証書

●取扱説明ビデオ

■ 補助テーブルに入っている付属品

（注意）
●必ず本機専用の付属品をご使用ください。
●ボビンは専用ボビンの使用をお勧めします。
●市販のボビンをご購入されるときは、高さ 11 ～ 11.6mm、直径 20.6mm のプラスチックボビンをご購入ください。

品名	数量
ジグザグ押え ※本体にセット	1 個
ボタンホール押え	1 個
裁ち目かがり押え	1 個
まつり縫い押え	1 個
ファスナー押え	1 個

品名	数量
ドライバー	1 個
リッパー	1 個
スプールキャップ	1 個
ボビン	3 個
針 16番－1本 14番－2本 11番－2本	1セット

もくじ

お使いになる前に

操作のしかた

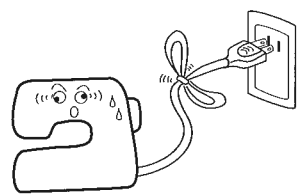
縫う準備

縫ってみましょう

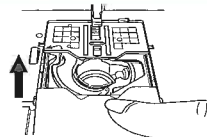
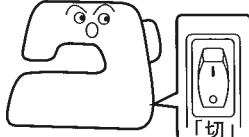
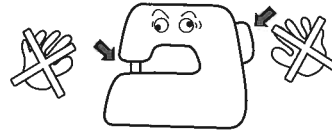
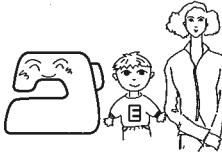
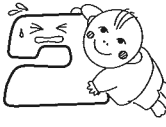
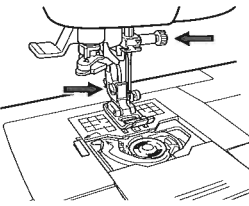
お手入れと保管方法

その他

安全上のご注意
（ご使用になる前に必ずお読みください。）

誤った取り扱いをしたときに生じる危害や損害を未然に防止するための、安全上の注意事項です。よくお読みのうえ必ずお守りください。

■「⚠ 警告」「⚠ 注意」の意味

⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

■ 絵表示の意味

絵表示	意味
（接触禁止）	触れる行為の禁止
（禁止）	してはいけない行為
（分解禁止）	分解禁止
（強制）	必ず行っていただくこと
（プラグを抜く）	電源プラグをコンセントから抜く

⚠ 警告

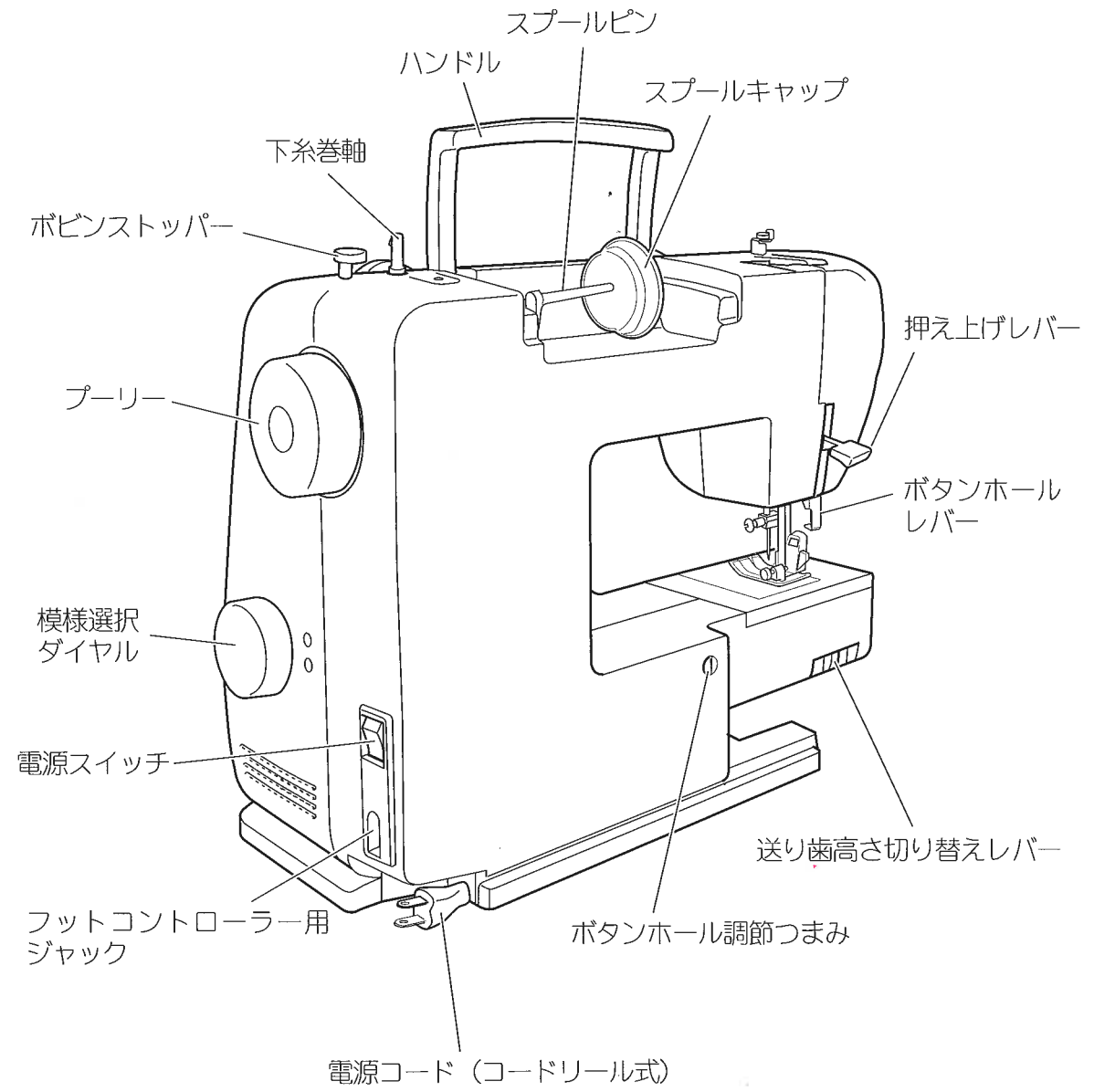
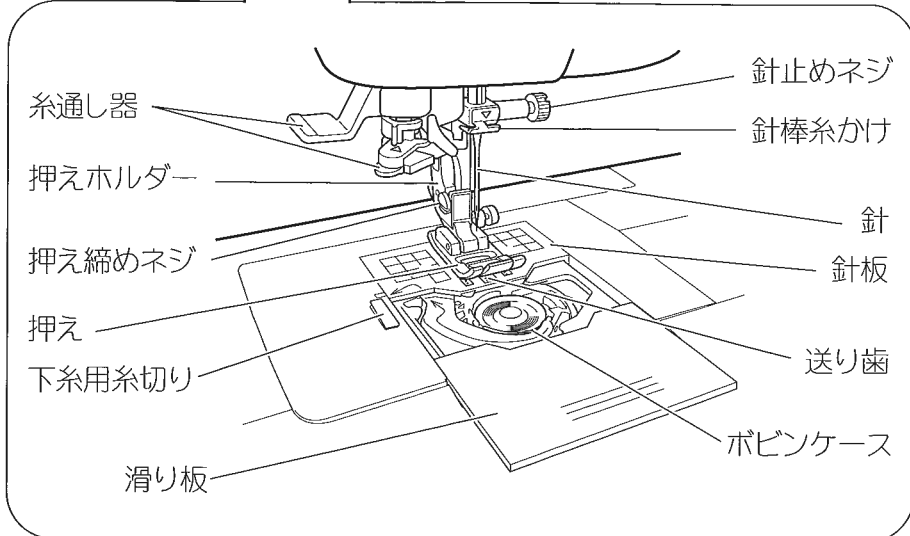
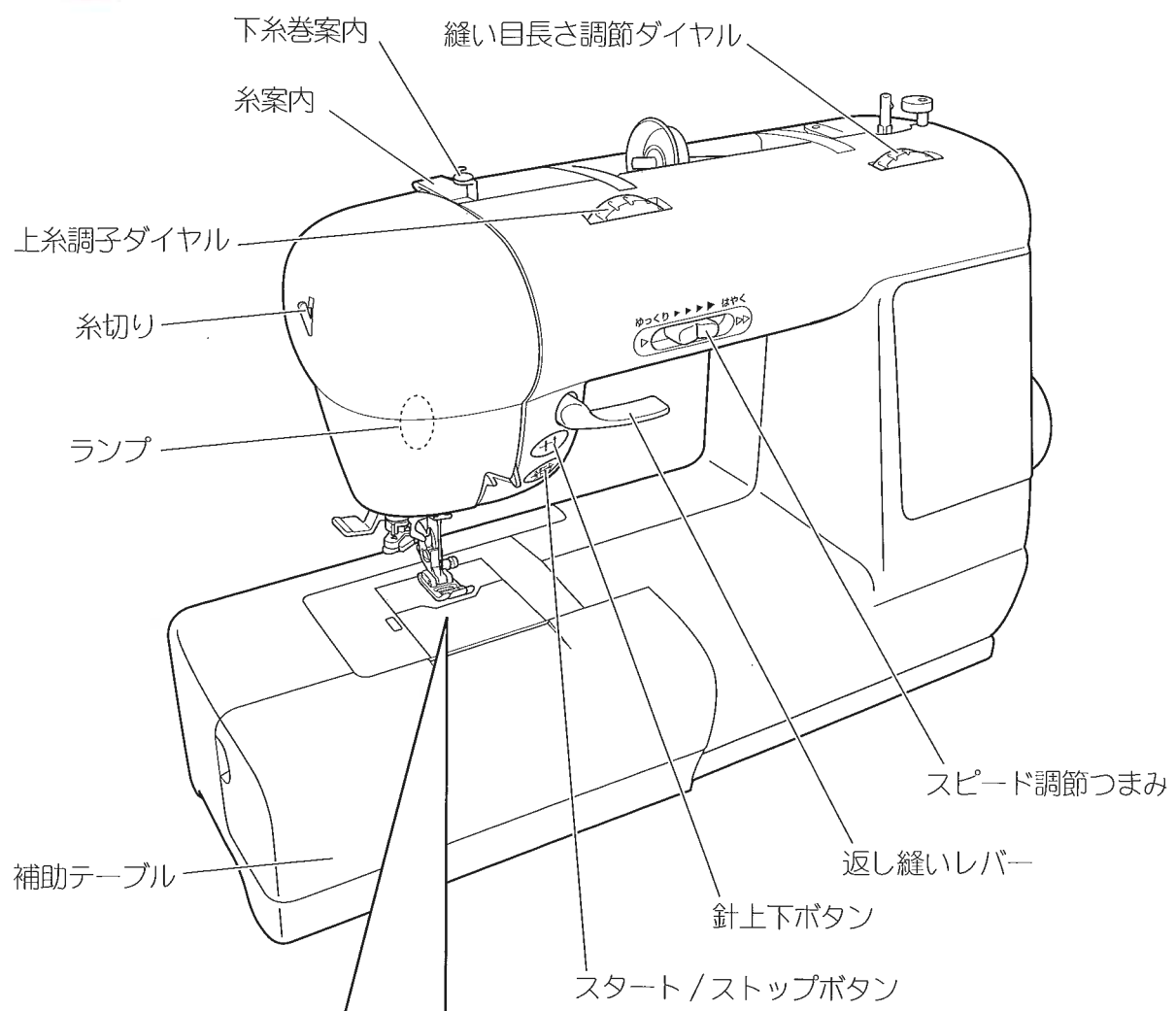
絵表示	内容
（強制）	電源は交流１００Ｖで使用する。 感電・火災の原因になります。
（禁止）	電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引張ったり、ねじったりしない。 感電・火災の原因になります。

⚠ 注意

絵表示	内容
（強制）	滑り板は閉じて使用する。 ケガの原因になります。
（強制）	針交換や上糸・下糸セット時は電源スイッチを「切」にする。 ケガの原因になります。
（強制）	ミシンを操作中は、針から目を離さない。 もし針が折れたとき、ケガをする原因になります。
（接触禁止）	針、プーリーなど動いている部分に触れない。 ケガの原因になります。
（強制）	お子様がご使用になるときは、保護者の指導のもとに使用する。 ケガの原因になります。
（禁止）	小さなお子様の近くでは使用しない。 針などに触れてケガをする原因になります。
（プラグを抜く）	ミシンの使用後、ミシンから離れるときは、電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜く。 ケガの原因になります。
（強制）	ミシンを使用する前に押え締めネジ・針止めネジがしっかり締まっていることを確認する。 ケガの原因になります。
（禁止）	次のような行為をしない。 ケガの原因になります。 ・押えを下げずに縫う。 ・針の取り付けが間違ったまま縫う。 ・曲がった針を使用する。 ・布を引張って縫う。 ・裁縫中に模様選択ダイヤルを動かす。

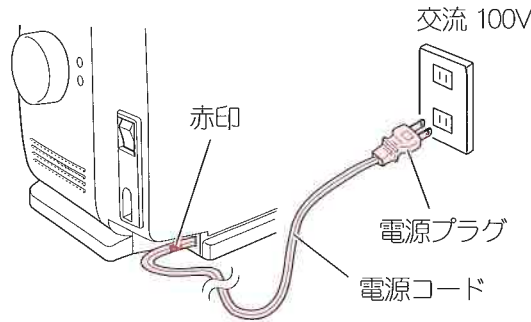
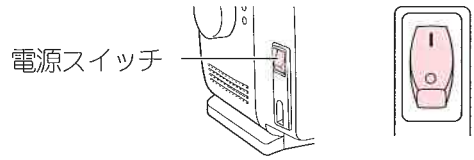
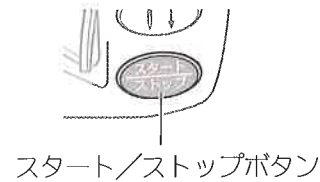
各部のなまえ

下糸巻案内
縫い目長さ調節ダイヤル
糸案内
上糸調子ダイヤル
糸切り
ランプ
補助テーブル
スピード調節つまみ
返し縫いレバー
針上下ボタン
スタート／ストップボタン

糸通し器
押えホルダー
押え締めネジ
押え
下糸用糸切り
滑り板
針止めネジ
針棒糸かけ
針
針板
送り歯
ボビンケース

ミシンの動かしかた

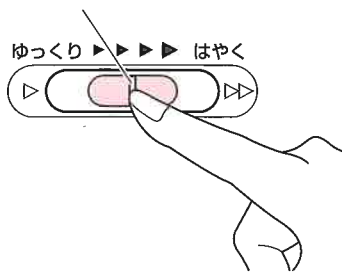
1 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込む。

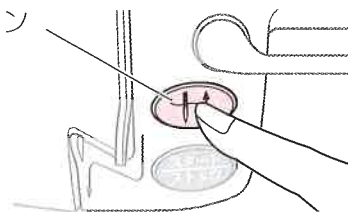
(お願い) 電源コードは赤印が見えたら、それ以上引き出さないでください。電源コードが戻らなくなります。

※電源コードの戻しかた
電源コードを3～5cm引き出し、離すと戻ります。

2 電源スイッチの「I」側を押す。
⇒ ランプが点灯します。

3 スタート／ストップボタンを押す。
⇒ ミシンが動き出します。

※ミシンを止めるには
スタート／ストップボタンをもう1度押すとミシンは止まります。ミシンを使用しないときは、電源スイッチの「O」側を押し、電源を切ってください。

スピード調節のしかた

■速くするとき
スピード調節つまみを右に動かす。

■ゆっくりにするとき
スピード調節つまみを左に動かす。

針上下ボタンの使いかた

■針上下ボタンは、押すごとに針位置が上、下に替わります。
上糸をかけるときや縫い模様を選ぶときの針上げおよび、縫い始めや縫い方向を変えるときの針下げなどに使います。

フットコントローラーの使いかた

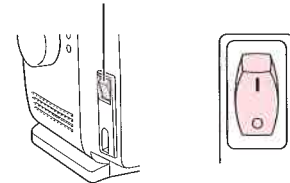
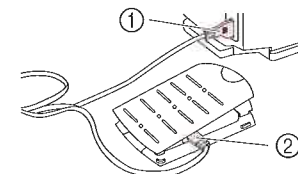
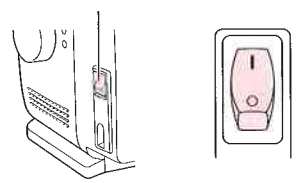
TM2D・L では別売品です。

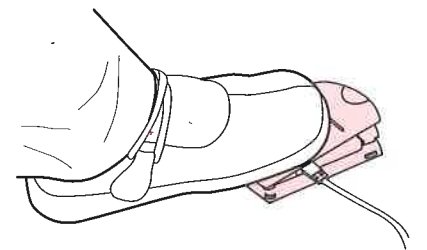
⚠注意

フットコントローラーは、必ず電源スイッチを「切」にしてから接続する。
ケガの原因になります。

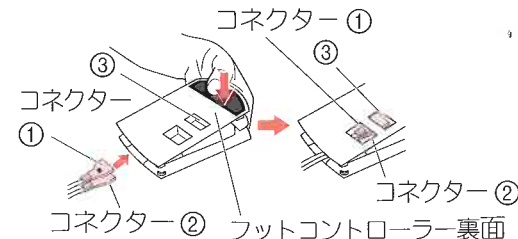
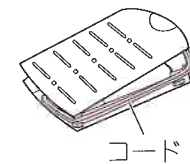
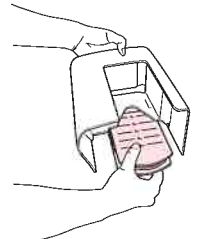
(注意) フットコントローラーを使用しているときは、スタート／ストップボタンは操作できません。

■ 使いかた

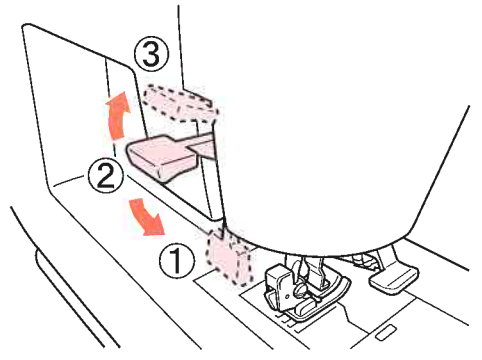
1 ミシンの電源スイッチの「O」側を押し、電源を切る。

2 フットコントローラーコードのコネクター①をミシンのジャックに、コネクター②をフットコントローラーに差し込む。

3 ミシンの電源スイッチの「I」側を押し、電源を「入」にする。

4 フットコントローラーをゆっくり踏み込む。
⇒ ミシンが動きだします。

※速度はフットコントローラーを深く踏み込むと速くなり、浅く踏み込むと遅くなります。
※スピード調節つまみで、フットコントローラーを最も踏み込んだときの最高速度を調節できます。

踏み込みをやめるとミシンは止まります。

■ 収納のしかた

1 手でフットコントローラーを押えながらコネクター①②を重ねて③の部分に差し込む。

2 コードをフットコントローラーへ巻きつける。

3 図のように補助テーブルの中に差し込む。

押え上げレバーの使いかた

■縫うとき
押え上げレバーを下げ（①の位置）押えを下げる。

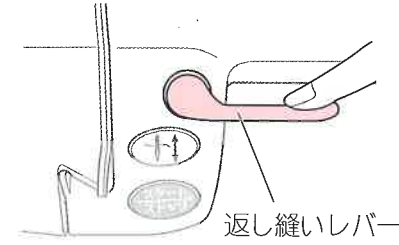
■布地を入れるとき
押え上げレバーを上げ（②の位置）押えを上げる。
※押え上げレバーを③の位置に上げると押えは更に上がります。この位置では止まりませんので手で持ったまま使用してください。厚い布地を入れるとき便利です。

返し縫いレバーの使いかた

■返し縫いレバーを下げている間、低速で返し縫いになります。
スタート／ストップボタンを押さなくてもレバーだけでスタートします。

返し縫いレバー

プーリーの使いかた

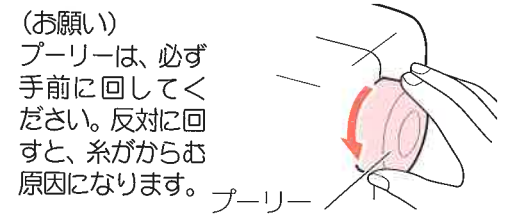
■プーリーを回すと針が上下します。
上糸をかけるときや縫い模様を選ぶときの針上げおよび、縫い始めや縫い方向を変えるときの針下げなどに使います。
針上下ボタンでもできます。

（お願い）
プーリーは、必ず手前に回してください。反対に回すと、糸がからむ原因になります。

プーリー

縫い目長さの調節のしかた

■縫い目長さを大きくするとき
縫い目長さ調節ダイヤルの数字を大きくします。

■縫い目長さを小さくするとき
縫い目長さ調節ダイヤルの数字を小さくします。

ぬい目の長さ

縫い模様の選びかた

1 針上下ボタンを1～2回押し、針を上げる。

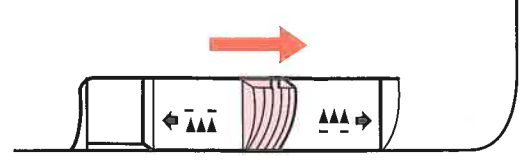
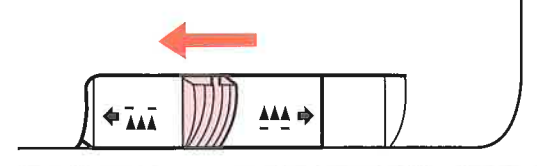
針上下ボタン

2 模様選択ダイヤルを回し、縫い模様を選ぶ。

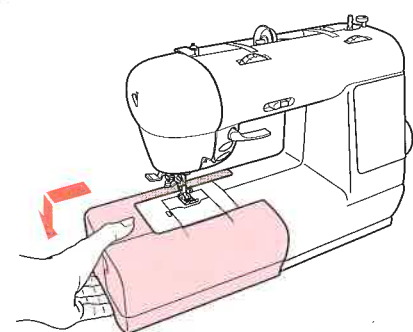
模様選択ダイヤル

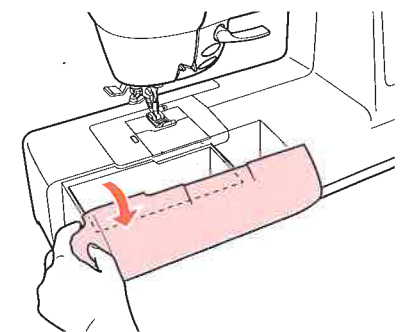
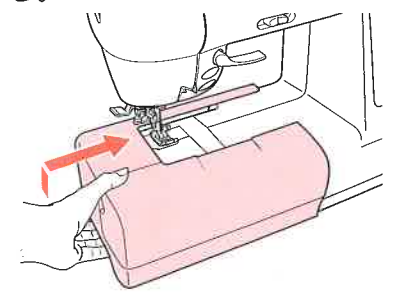
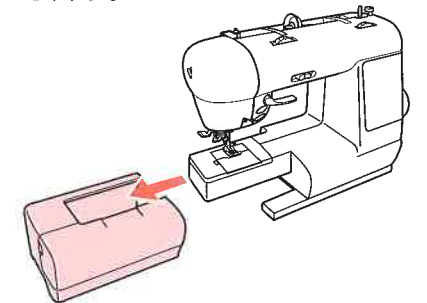
送り歯高さ切り替えレバー

刺しゅうやキルトなど布地を手で送りたいときに、送り歯を下げることができるドロップフィード機能がついています。
（お願い）送り歯高さ切り替えレバーは補助テーブルを外し、押えを上げて操作してください。

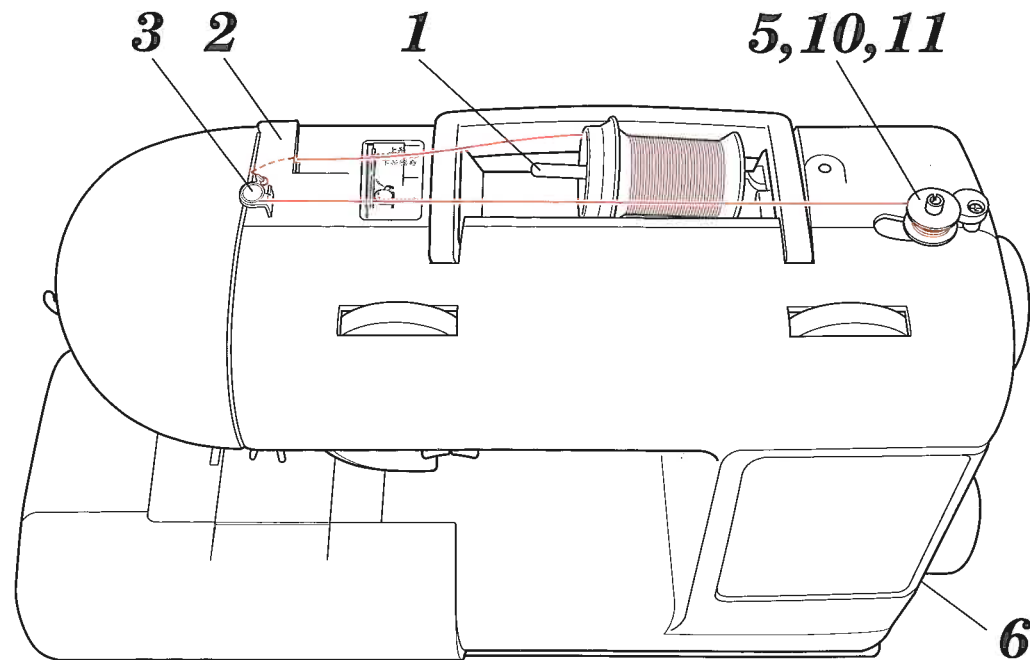
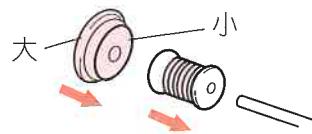
■通常の縫いをするとき
●送り歯高さ切り替えレバーを右方向に押し、送り歯を上げる。
※送り歯はプーリーを回すと上がります。

■布地を手で送りたいとき
●送り歯高さ切り替えレバーを左方向に押し、送り歯を下げる。
（この機能をドロップフィード機能といいます）

補助テーブルの使いかた

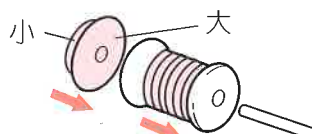
■ミシンを使用するとき
●左方向に引き出す。

引き出した状態でミシンを持ち上げないでください。

■付属品を取り出すとき
●指をかけ、フタを開く。

補助テーブルが収納状態のときは開きません。

■ミシンの使用を終えたとき
●少し持ち上げ、右方向に押し収納する。

■筒物を縫うとき
●補助テーブルを左方向に引き出し、取り外す。

下糸の巻きかた

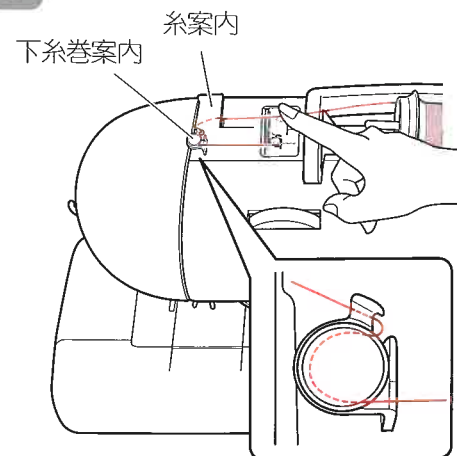
⚠注意

下糸を巻いているときは、下糸巻軸に触れない。
ケガの原因になります。

1 スプールピンに糸コマとスプールキャップを差し込む。

■小さい糸コマの場合

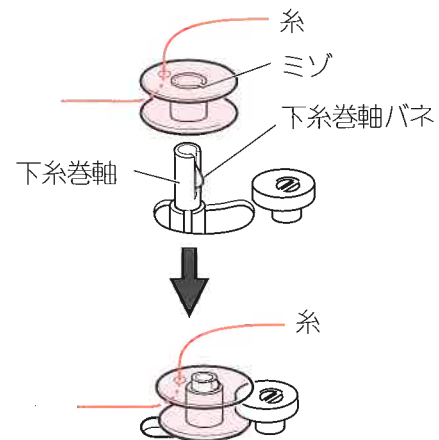
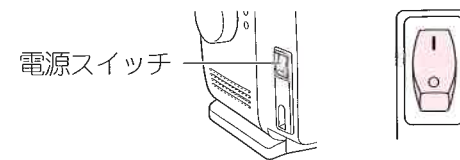
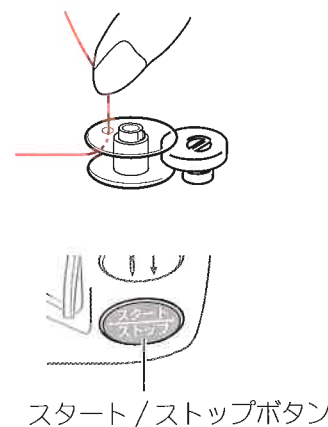
■大きい糸コマの場合

※糸コマとスプールキャップの間は、2 mm位すきまをあけます。

2 糸案内に糸をかける。

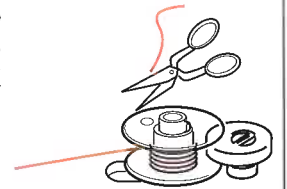
※右手で糸を押えながら、左手で糸の端を持ち、パチッと音がするまで手前に引いてください。

3 下糸巻案内に糸をかける。

4 ボビンの穴に内側から糸を入れる。

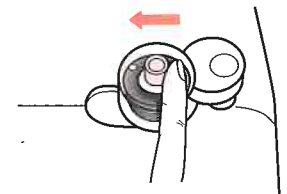
5 ボビンのミゾと下糸巻軸バネの位置を合わせ、ボビンを差し込む。

⇒ 下糸巻軸が自動的に右に移動します。

6 電源スイッチの「Ｉ」側を押し、電源を入れる。

7 糸端を持ち、スタート / ストップボタンを押して少し巻き、もう1度スタート / ストップボタンを押して、1度ミシンを止める。

8 ボビンの穴から出ている糸を切り、スタート／ストップボタンを押して最後まで巻く。

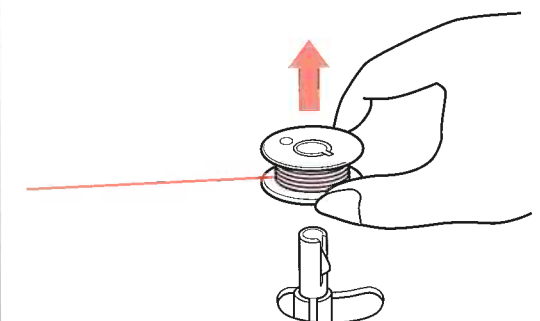
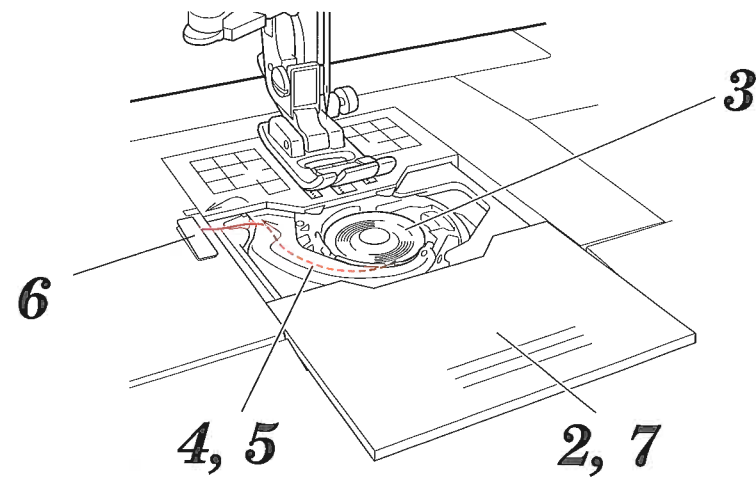
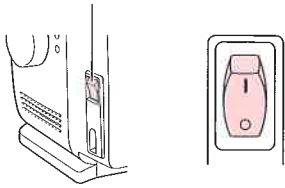
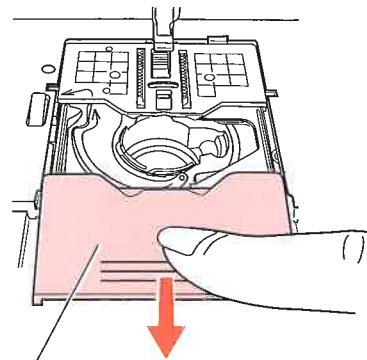
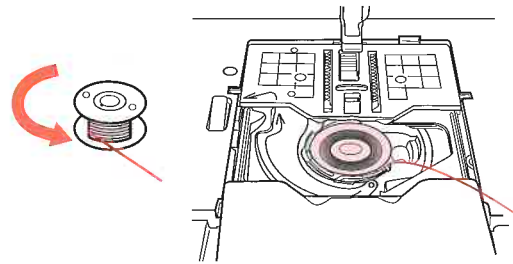
⇒ 巻き終わると自動的にボビンの回転が止まります。

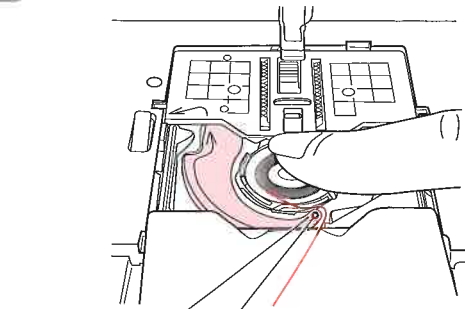
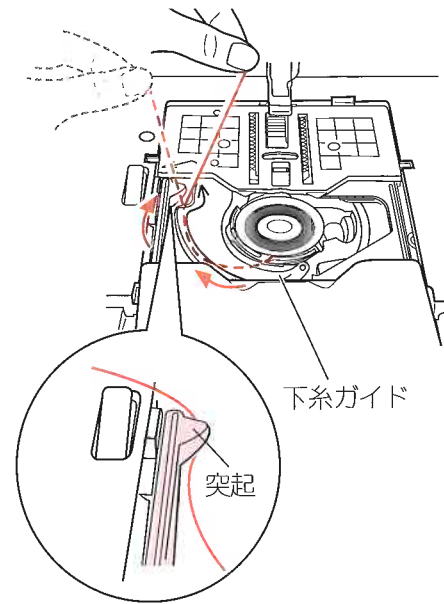
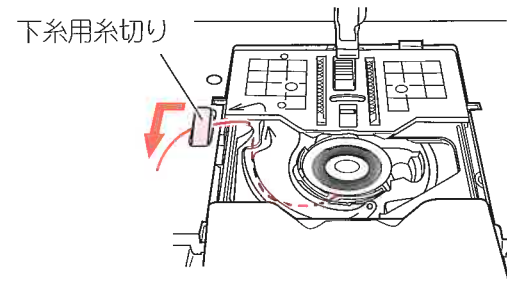
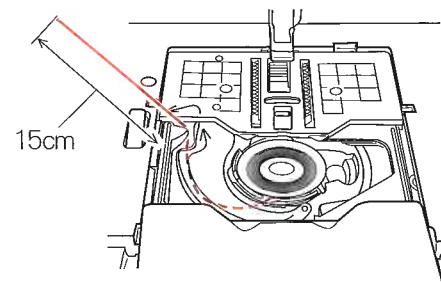
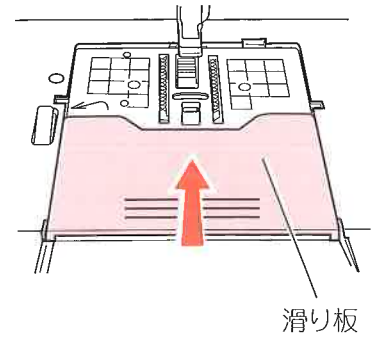
※穴から出ている糸は、ボビンから出ないように切ってください。

※速く巻く場合はスピード調節つまみを「はやく」に移動します。

9 スタート / ストップボタンを押し、ミシンを止める。

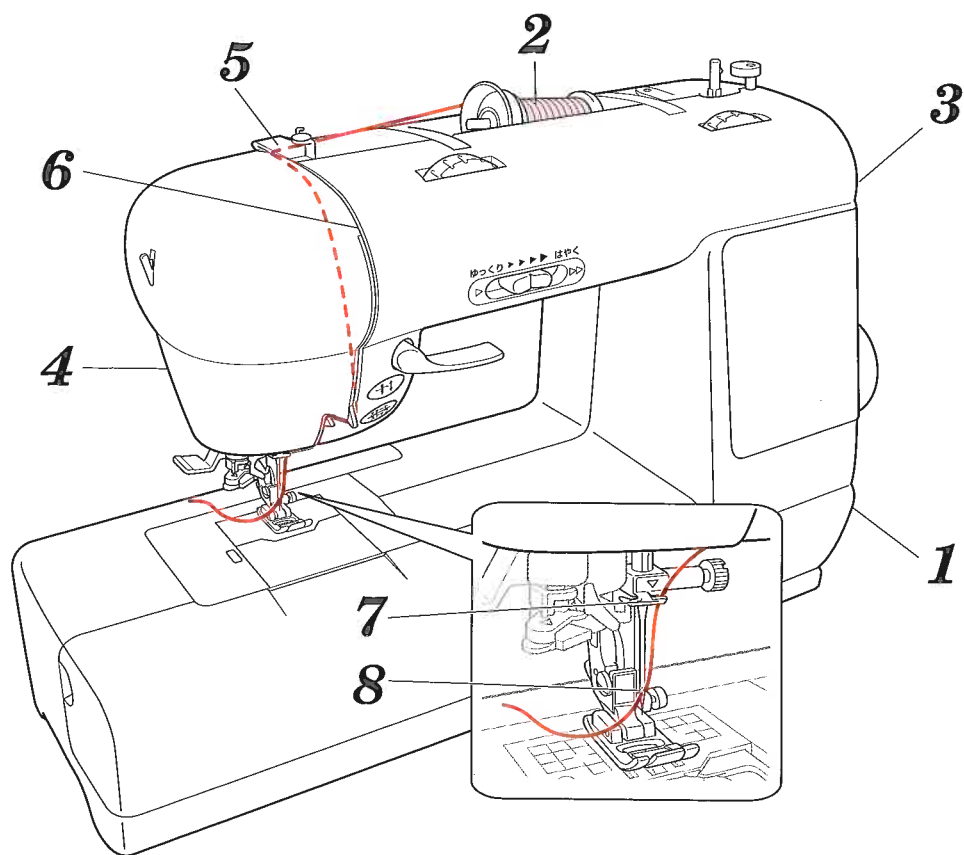
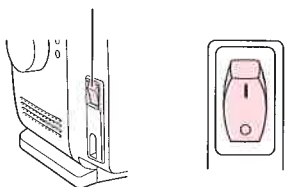
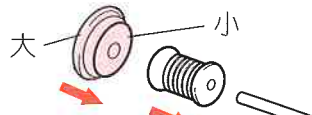
10 下糸巻軸を指で左に押し戻す。

※下糸巻軸を戻すときは、ボビンを押えないようにしてください。

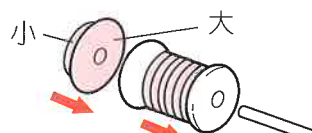
※下糸巻軸を戻さないと、針は動かず縫うことができません。

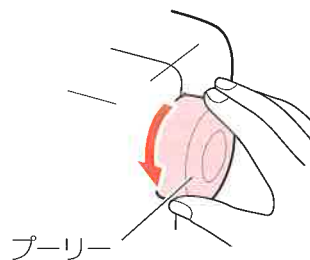
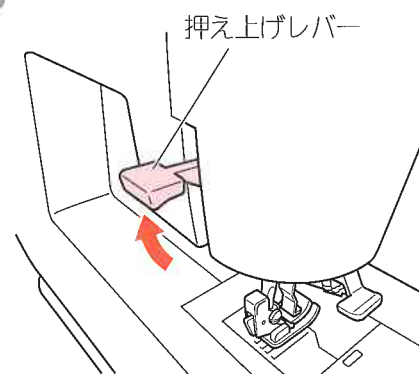
11 ボビンを外し、糸を切る。

下糸のセットのしかた

1 電源スイッチの「○」側を押し、電源を切る。

2 滑り板を手前に引き、開ける。

3 糸が左巻きになるようにボビンを入れる。

※糸の方向を間違えると縫い不良の原因になります。

4 下糸ガイド（緑マーク）の下側に糸を通す。

5 下糸ガイドの矢印にそって、糸を斜め後方に引いて突起にかける。

6 下糸用糸切りに糸をかけ、手前に引いて糸を切る。

※ウーリー糸など伸びる糸の場合、下糸用糸切りで糸を切らずに、１５ｃｍほど後方に引き出したままにします。

7 滑り板を元に戻す。

※必ず糸を切ってから滑り板を戻してください。

これで下糸のセットは完了です。
（下糸を引き上げなくても縫えます）

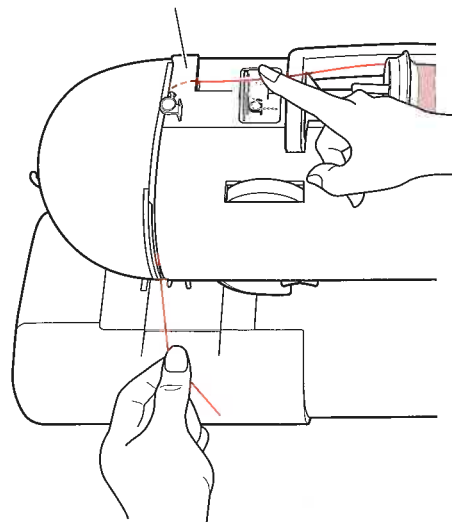
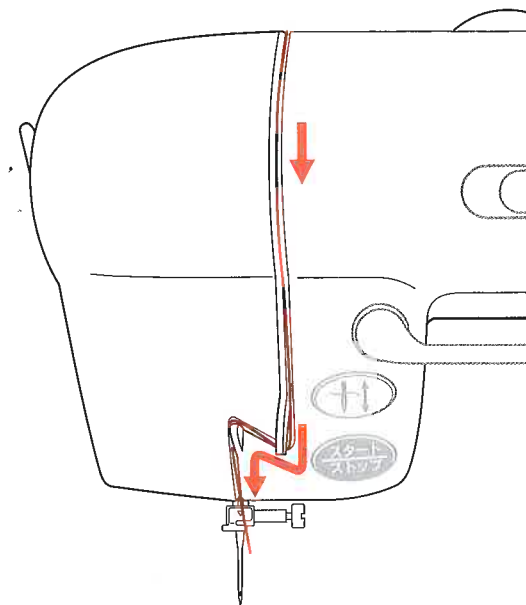
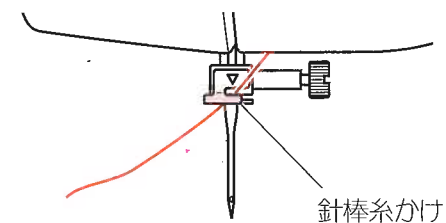
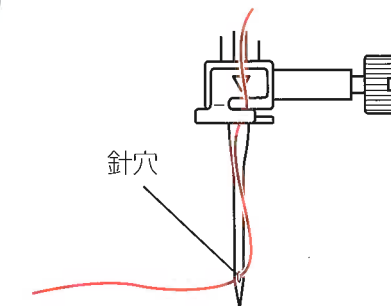
上糸のかけかた

1 電源スイッチの「○」側を押し、電源を切る。

2 スプールピンに糸コマとスプールキャップを差し込む。

■小さい糸コマの場合

■大きい糸コマの場合

※糸コマとスプールキャップの間は、2 mm 位すきまをあけます。

3 プーリーを手前に回し、針を一番上に上げる。

4 押え上げレバーを上げる。

※押え上げレバーを上げないと正しく糸がかかりません。

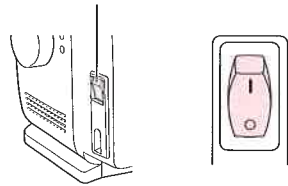
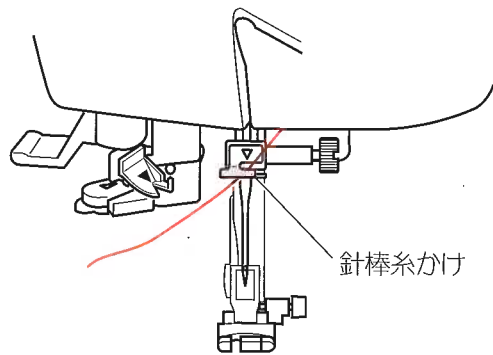
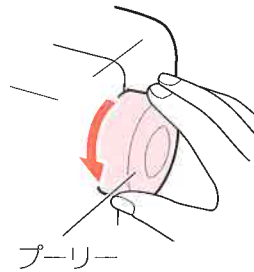
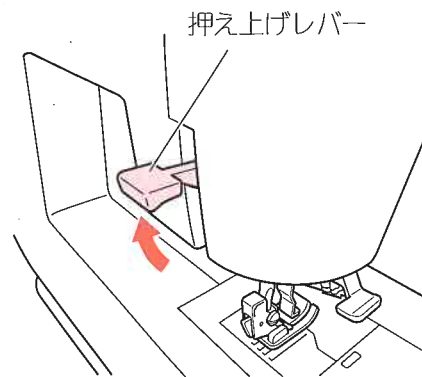
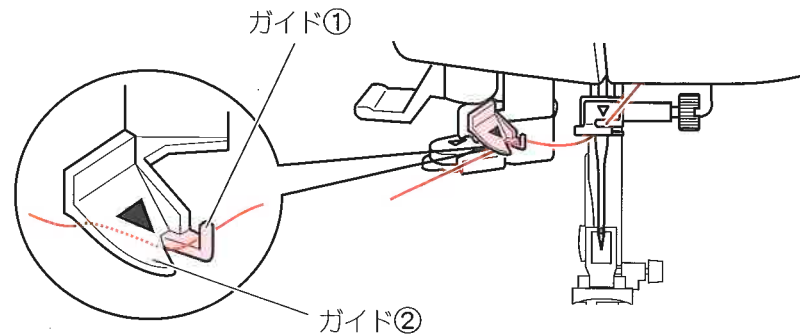
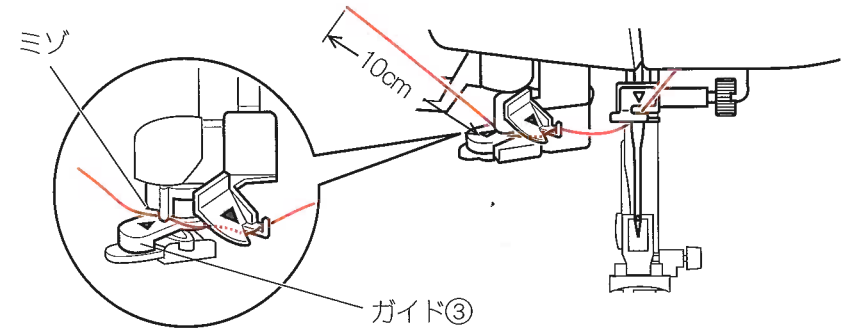
5 糸案内に糸をかける。

※右手で糸を押えながら、左手で糸の端を持ち、パチッと音がするまで手前に引いてください。

6 ミゾに沿って糸をかける。

7 針棒糸かけの右側に糸をかける。

8 針穴に糸を通す。

※糸は針穴の手前から通してください。

※針穴への糸通しは、糸通し器を使うと便利です。（18 ページ）

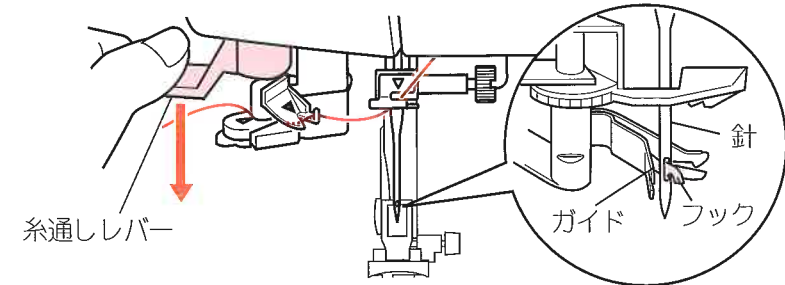
糸通し器の使いかた

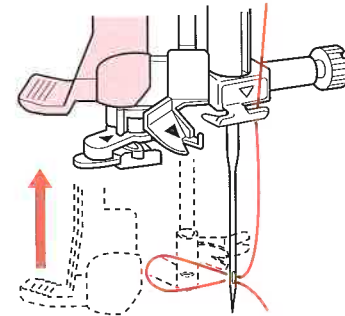
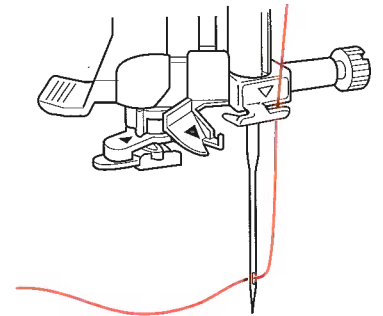
（注意）糸通し器が使える針は、「１１～１６番」です。（ご購入時には１４番が付いています）針に対して糸が太いと、糸通しができません。針と糸の組み合わせは、２２ページ「針と糸と布地の組み合わせ」をご覧ください。

1 電源スイッチの「○」側を押し、電源を切る。

2 針棒糸かけに糸がかかっていることを確認する。

3 プーリーを手前に回し、針を一番上に上げる。

4 押え上げレバーを上げる。

5 ガイド①に糸をかけ、次にガイド②に糸をかける。

6 ガイド③のミゾに糸をはさみ込み、後方に、１０ｃｍほど引き出す。

7 糸通しレバーを親指で、ガイドが回転するまでゆっくり下げる。

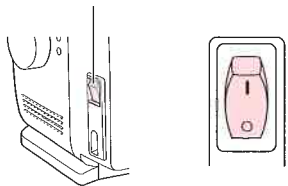
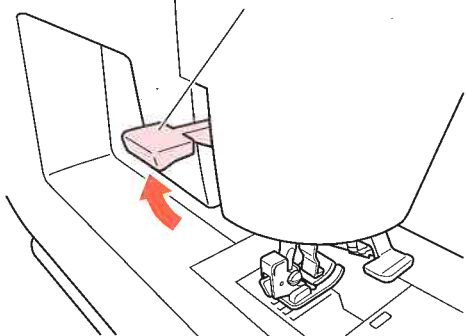
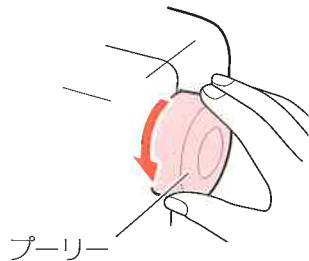
⇒ フックが針穴に通ります。

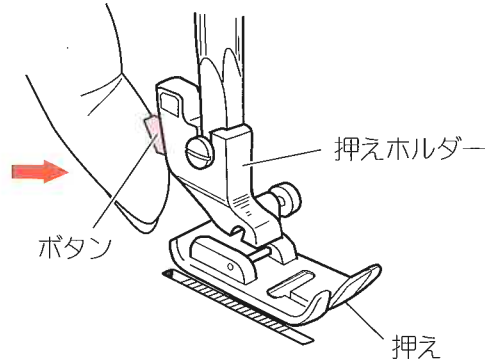
※フックが針穴に通らないと、糸は針穴に通りません。

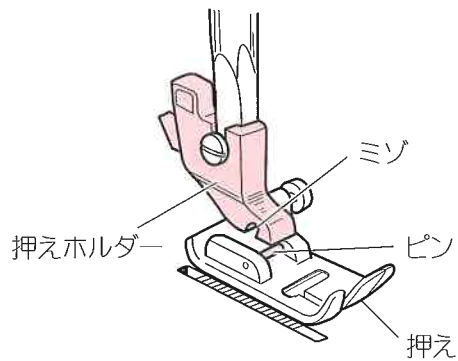
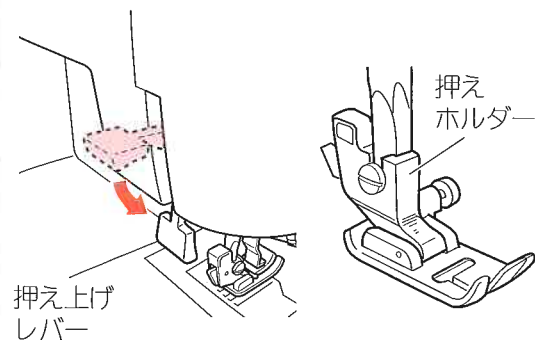
※フックが曲がっていて、針穴を通らない場合は、ドライバーなどでフックをまっすぐに直します。

8 糸通しレバーをゆっくり戻す。

⇒ 針穴に糸が通ります。

9 針穴に通った糸を後方に出し、１５ｃｍほど引き出す。

押えの取り替えかた

■ 取り外しかた

1 電源スイッチの「○」側を押し、電源を切る。

3 プーリーを手前に回し、針を一番上に上げる。

2 押え上げレバーを上げる。

4 ボタンを押す。
⇒ 押えが外れます。

■ 取り付けかた

1 押えのピンを押えホルダーのミゾの真下に置く。

2 押え上げレバーをゆっくり下げる。
⇒ 押えが取り付きます。

針の取り替えかた

⚠注意

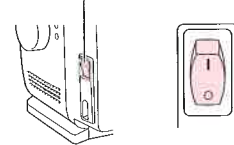
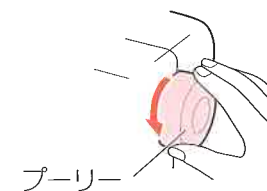
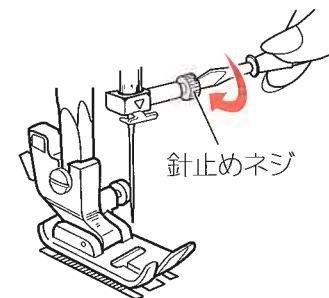
針を取り替えた後は、針止めネジをしっかり締める。
ケガの原因になります。

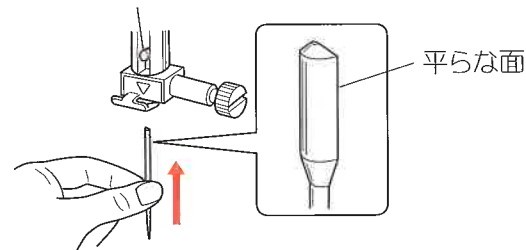
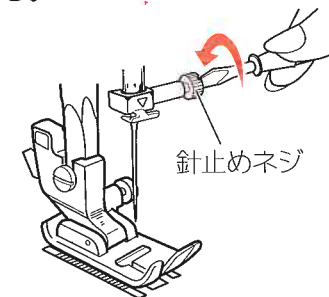
⚠注意

折れた針は必ず回収する。
ケガの原因になります。

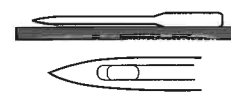
■ 取り外しかた

押えの下に紙などを敷くと、針が針板の中に落ちるのを防ぎます。

1 電源スイッチの「○」側を押し、電源を切る。

2 プーリーを手前に回し、針を一番上に上げる。

3 片手で針を持ち、ドライバーで針止めネジをゆるめ、針を抜き取る。

■ 取り付けかた

1 針の平らな面を向こう側に向けピン①に当たるまで差し込む。

2 針止めネジをドライバーでしっかり締める。

■ 正しい針の見分けかた

不良の針を使うと、縫えないばかりでなく、針板やかまにキズをつけたり、針が折れたりして危険です。
※目とび、糸切れの場合、まず針を替えてみてください。

○正しい針

×不良針

・針全体が曲がっている

・針先がつぶれている

・針先が曲がっている

針と糸と布地の組み合わせ

ミシン針と糸は布地に合わせて使い分けが必要です。
次の表を参考にして選んでください。

	布地の種類	針の種類（番号）	糸の種類・太さ
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、パイル地、ギンガム	１１、１４番	綿　糸６０番～８０番 化繊糸６０番～８０番 絹　糸５０番～８０番
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラ	９、１１番	綿　糸６０番～ 100 番 化繊糸６０番～８０番 絹　糸５０番～８０番
厚地	カーテン地、キルティング、フリース、ツイード、デニム、フェルト	１４、１６番	綿　糸４０番～５０番 化繊糸３０番～５０番 絹　糸５０番
伸縮布	ジャージ、ニット	ＳＰ針１１番	化繊糸５０番～６０番

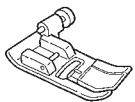
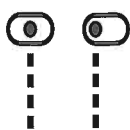
※上糸と下糸は、同じ種類のものをお使いください。
※一般に薄い布地には細い糸、厚い布地には太い糸をお使いください。
※針は番号が大きくなると太くなり、糸は番号が大きくなると細くなります。
※伸縮性のある布地には、市販のＳＰ針を使用するとよりきれいに縫えます。
※市販で針をお求めの場合は、家庭用ミシン針とご指定のうえ、お求めください。

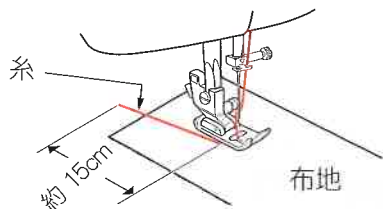
縫い模様一覧

番号	1	2	3	4	5	6	7
縫い模様							
主な用途	ボタンホール	直線縫い		ジグザグ縫い アップリケ		普通地の裁ち目かがり	つくろい縫い 薄地の裁ち目かがり
押え	ボタンホール	ジグザグ		ジグザグ		裁ち目かがり	ジグザグ
縫い目長さ	0.4 ～ 0.6	1 ～ 4		0.5 ～ 4		1 ～ 4	1 ～ 2

番号	8	9	10	11	12	13
縫い模様						
主な用途	まつり縫い	厚地／伸縮地の裁ち目かがり	飾り縫い		伸縮地の縫い合わせ	強化縫い
押え	まつり縫い	裁ち目かがり	ジグザグ			
縫い目長さ	1 ～ 2	4				

直線縫い

1 押えがジグザグ押えになっているか確認する。

2 模様選択ダイヤルを回し、番号「2」または「3」に合わせる。

3 縫い目長さ調節ダイヤルで、縫い目長さを「1～4」に合わせる。

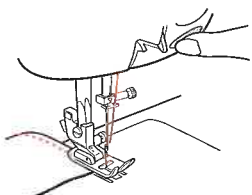
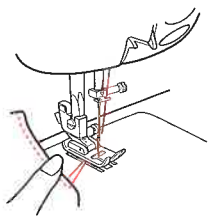
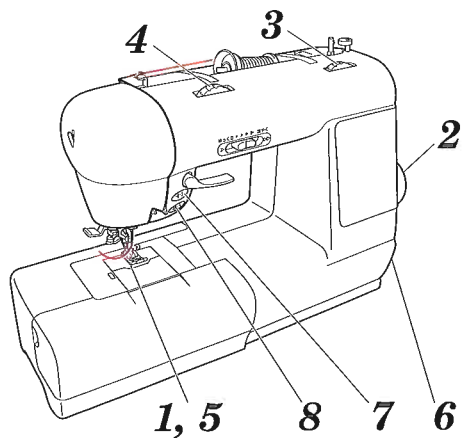
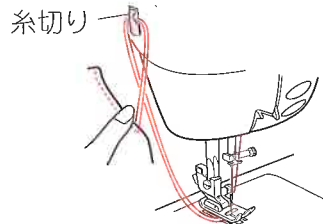
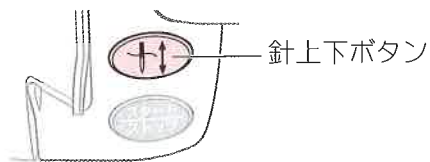
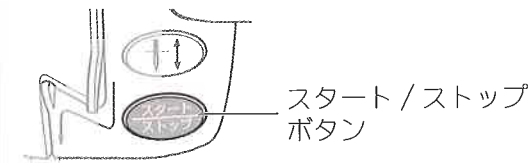
4 上糸調子ダイヤルを「自動」に合わせる。

5 押えの下に布地と糸を入れ、糸を後方に15cmほど引き出し、押え上げレバーを下げる。

6 電源スイッチの「I」側を押し、電源を入れる。

7 針上下ボタンを1～2回押し、針を下げる。

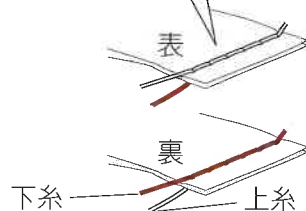
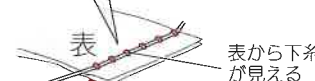
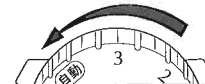
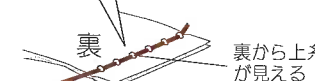
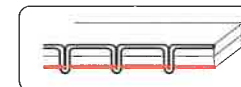
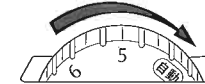
8 スタート／ストップボタンを押す。
⇒ ミシンが動き始めます。

■ 縫い終わるには

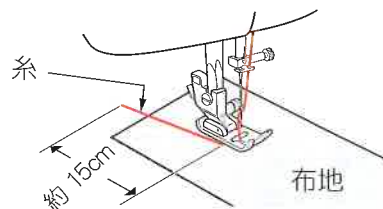
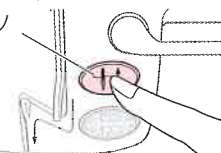
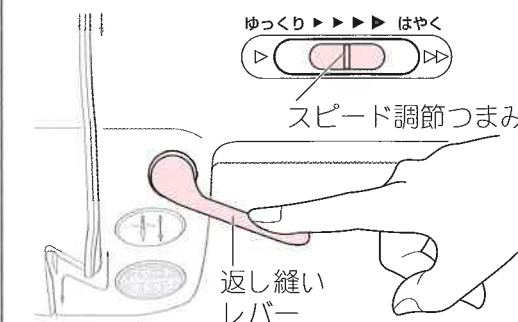
9 スタート／ストップボタンを押し、ミシンを止める。

10 押え上げレバーを上げ、布地を取り出す。

11 糸切りに糸をかけ、下へ引いて糸を切る。

糸調子の合わせかた

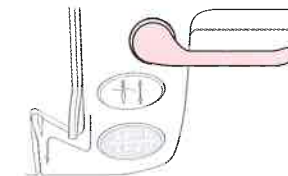
上糸調子ダイヤルを「自動」に合わせると、普通の縫いかたの場合、自動的に適切な糸調子になります。思い通りの糸調子にならないときや、特殊な糸や布地を縫う場合は、上糸の調子を強くしたり、弱くして調節します。

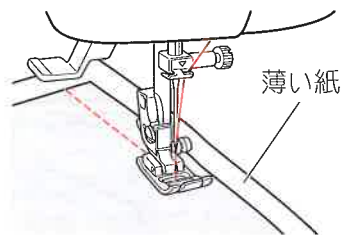
■正しい糸調子

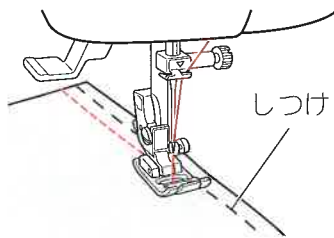
上糸と下糸が布地の中央で交差し、布地の表には上糸だけが、裏には下糸だけが見える状態です。

■布地の表に下糸が見えるとき

上糸が強いので、糸調子を弱くする。

■布地の裏に上糸が見えるとき

上糸が弱いので、糸調子を強くする。

返し縫い

1 返し縫いをする位置を決める。

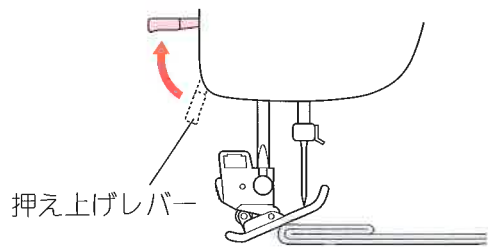
2 押えの下に布地と糸を入れ、糸を後方に15cmほど引き出し、押え上げレバーを下げる。

3 針上下ボタンを押し、針を下げる。

4 返し縫いレバーを下げる。
⇒ 低速で、返し縫いを始めます。
※返し縫いのスピードは、スピード調節つまみで調節します。

■ 返し縫いを止めるには

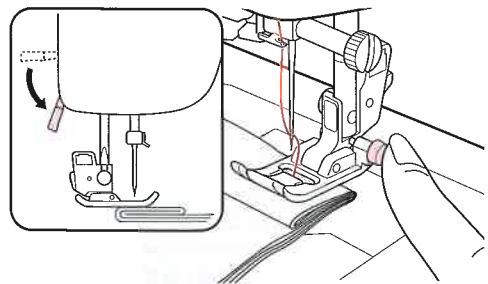
5 返し縫いレバーを離すと、ミシンは止まります。

薄い布地を縫う

薄い布地を縫う場合、縫い目がつったり、布地がうまく送れない場合があります。
その場合は、布地の下に薄い紙を敷いて、布地と一緒に縫うとうまく縫えます。縫い終わったら、紙を破いて取り除いてください。

伸縮性のある布地を縫う

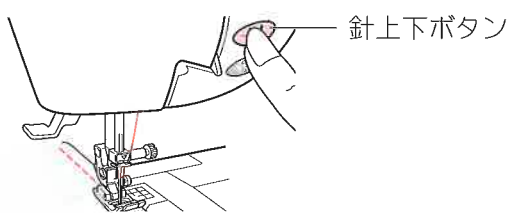
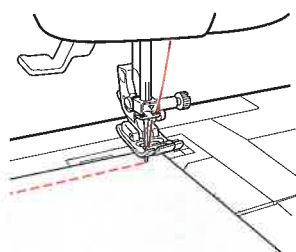
前もってしつけをして、布地を引張らないように縫います。

厚い布地を縫う
（縫い始めに段差があって布地を送らないとき）

このミシンのジグザグ押えには、押えを水平に保持する押え固定機能がついています。

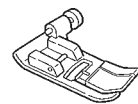
1 押え上げレバーを上げる。

2 押えの前方を軽く押して押えを水平にし、右側の橙色のボタンを押しながら押え上げレバーを下げる。
※押えが水平になり、布地を送るようになります。

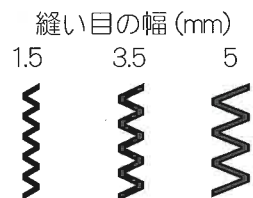
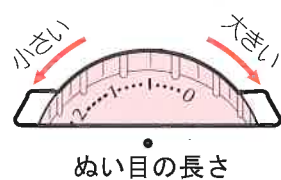
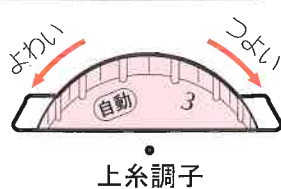
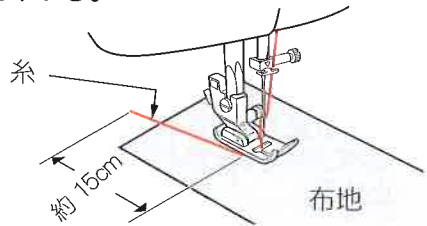
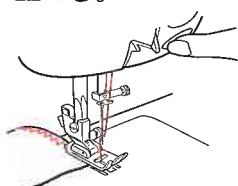
※縫い始めると押えは元に戻ります。

縫い方向を変えるには

1 ミシンを止め、針上下ボタンを押して針を下げる。

針上下ボタン

2 押えを上げ、針位置を中心に布地を回転させる。

ジグザグ縫い

上糸の糸調子を少し弱くして、下糸が布地の上に出ないようにすると、よりきれいに仕上がります。

1 押えがジグザグ押えになっているか確認する。

2 模様選択ダイヤルを回し、番号「4」、「5」または「6」に合わせる。

縫い目の幅（mm）
1.5　3.5　5

3 縫い目長さ調節ダイヤルで、縫い目長さを「0.5～4」に合わせる。

4 上糸調子ダイヤルを少し弱めに合わせる。

5 押えの下に布地と糸を入れ、糸を後方に15cmほど引き出し、押え上げレバーを下げる。

6 電源スイッチの「Ｉ」側を押し、電源を入れる。

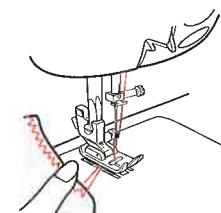
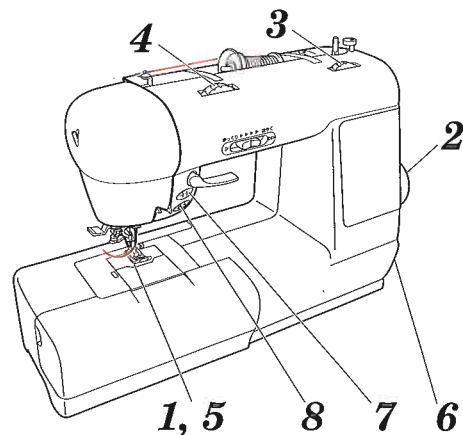
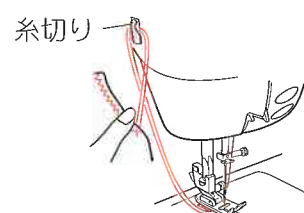
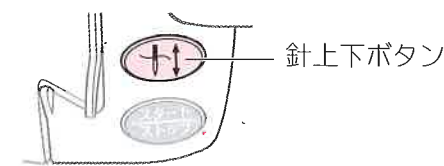
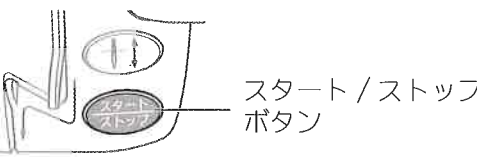
7 針上下ボタンを１～２回押し、針を下げる。

8 スタート／ストップボタンを押す。
⇒ ミシンが動き始めます。

スタート／ストップボタン

■ 縫いをやめるには

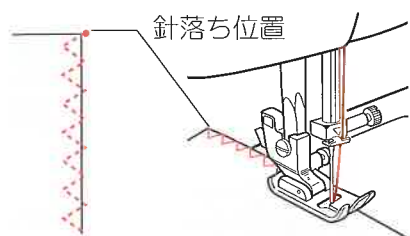
9 スタート／ストップボタンを押し、ミシンを止める。

10 押え上げレバーを上げ、布地を取り出す。

11 糸切りに糸をかけ、下へ引いて糸を切る。

裁ち目かがり

裁断した布端のほつれを防止するために、裁ち目かがりをします。
下の表を参考に、布地に適した縫い模様と押えを選択し、縫い目長さを合わせてください。

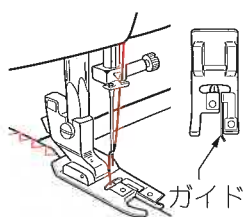
	模様	縫い目長さ	押え	針
薄地	番号７	１～２	ジグザグ押え	普通針　１１番
普通地	番号６	１～４	裁ち目かがり押え	普通針　１１、１４番 ＳＰ針　１１、１４番
厚地	番号９	４		普通針　１１、１４番 ＳＰ針　１１、１４番

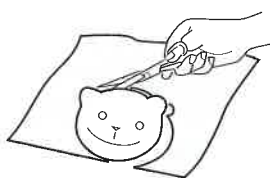
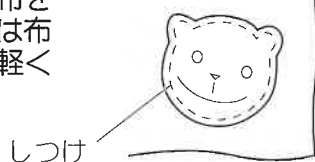
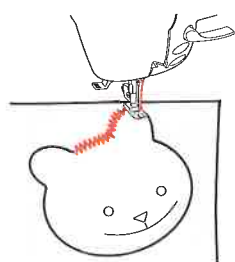
■ ジグザグ押えを使う場合

布端より少し外側に針が落ちるように布地の位置を決め、縫う。

■ 裁ち目かがり押えを使う場合

押えのガイドに布端を当てながら、縫う。

⚠ 注意

番号７の模様では使用しない。
針が押えに当たり、針折れし、ケガの原因になります。

アップリケ

1 アップリケ用の布を好みの図案に切り取る。

2 アップリケ布をしつけまたは布用ボンドで軽く止める。

3 アップリケ布の周りをジグザグ縫いで縫う。
※縫い方向を変える場合は、アップリケ布の外側に針を落とし、押えを上げて布地を回します。

まつり縫い

スカートやズボンのすそをまつるときに使います。布地の表側に縫い目が見えない縫いかたです。

1 布端に裁ち目かがりをして図のように折る。
※布端から「３～５ mm」のところで、しつけまたはアイロンで折り目をつけます。

2 しつけまたはアイロンで折り目をつけたところから折り返し、布地の裏を上側にする。

3 まつり縫い押えを取り付ける。

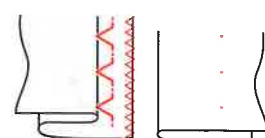
4 模様選択ダイヤルを回し、番号「８」に合わせる。

5 縫い目長さ調節ダイヤルで、縫い目長さを「１～２」に合わせる。

6 針が左に来たときに折り山に少しかかるように布地を置く。

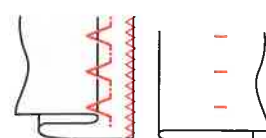
7 押え上げレバーを下げ、折り山にガイドが当たるようにネジで調節し、ガイドに折り山を当てながら縫う。

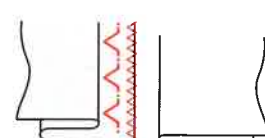
■ 正しい縫い目

表側に小さく均等に縫い目が出ている。

（ひろげた状態）

■ このようなときは

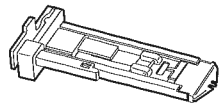
針が折り山にかかりすぎた場合

裏　表

表側に出る縫い目が大きくなる。

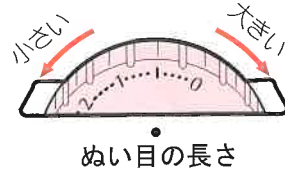
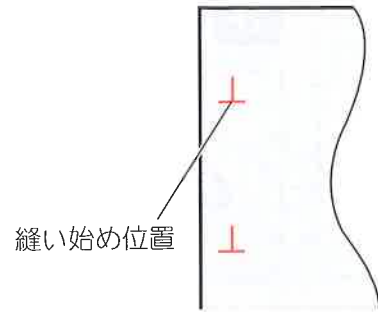
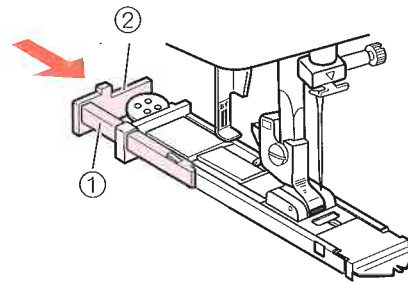
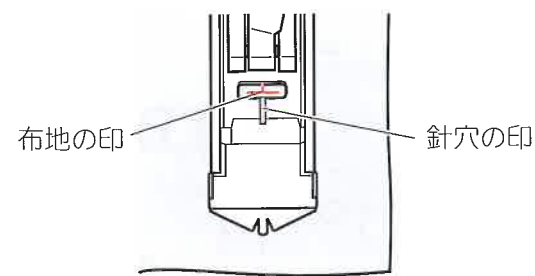
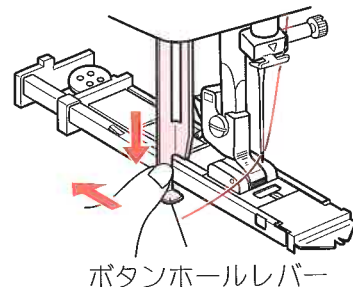
針が折り山にかからない場合

まつり縫いができていない。

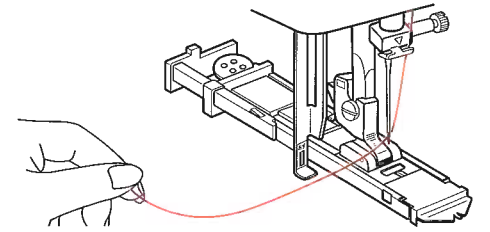
ボタンホール縫い

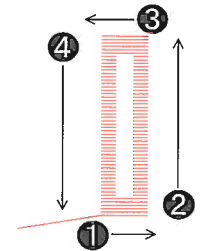
ボタンの大きさに合ったボタンホールを縫うことができます。
伸縮地や薄地の場合は、芯地（不織地）を布地の裏に貼ることで、きれいに仕上がります。
※付属のボタンホール押えは、ボタンの直径が2.7ｃｍまでのボタンホール縫いができます。
※丸いボタン以外の形の変わったボタンや厚みのあるボタンは使用できません。

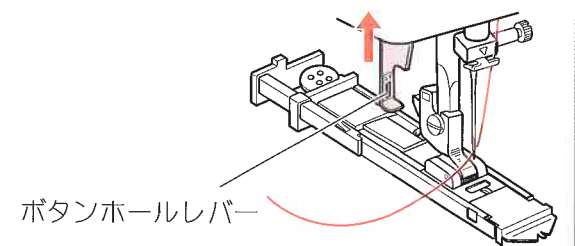
1 ボタンホール押えを取り付ける。

2 模様選択ダイヤルを回し、番号「１」に合わせる。

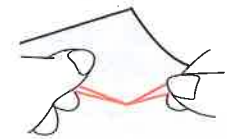
3 縫い目長さ調節ダイヤルで、縫い目長さを「０．４～０．６」に合わせる。

小さい　大きい
ぬい目の長さ

4 布地にボタンホールの縫い位置を決めて、図のような印をつける。

5 ボタンを押えの台①に入れ、②を押し、ボタンをはさむ。

6 押えの針穴の印と布地の印の手前側を図のように合わせ、押えを下げる。

7 ボタンホールレバーを下端まで下げた後、後方に押す。

8 左手で上糸の端を軽く持ち、スタート／ストップボタンを押し、ミシンをスタートさせる。

※ボタンホール縫いは、❶～❹の順に縫っていきます。
※❹の後、❶に戻りますが、自動で止まりません。

9 針の動きを見て、縫い位置が❶になったらスタート／ストップボタンを押し、ミシンを止める。

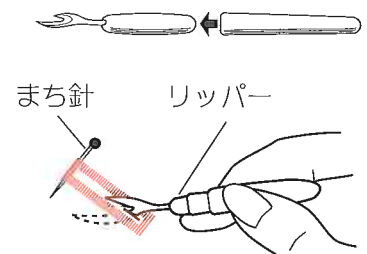
※続けてボタンホールを縫う場合は、その都度ボタンホールレバーを後方に押し、スタート／ストップボタンを押して、縫います。

10 ボタンホール縫いが終わったら、ボタンホールレバーをいっぱいに押し上げ、元に戻す。

※ボタンホールレバーが途中で止まっていると他の縫いができません。

11 押えを上げ、布地を外す。

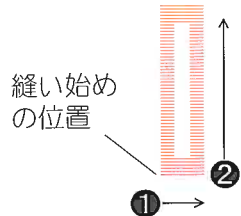
※糸のほつれを防止するために、布地の裏側より下糸を引張り、上糸を引き出して、結びます。

⚠注意

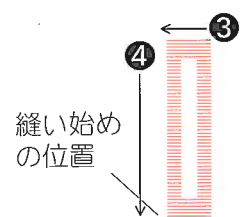
リッパーで切り込みをするとき、リッパーの前で布地を持たない。
手にケガをする原因になります。

12 縫い目を切らないように、付属のリッパーで中央を切り開く。

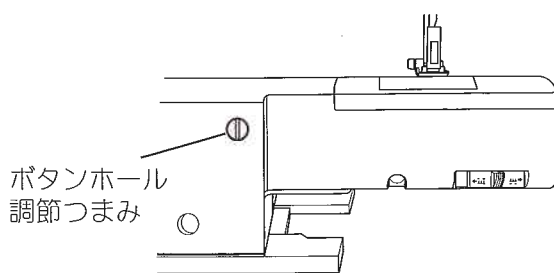
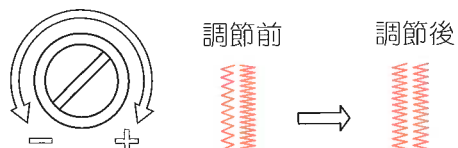
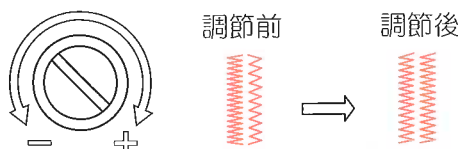
※まち針をかんぬき部に刺しておくと、リッパーでの切り込みすぎを防ぐことができます。

ボタンホール縫いの途中で失敗したとき

ボタンホール縫い（❶～❹）の途中で失敗したときは、失敗した場所によって以下の手順を行ってください。省略すると、次にボタンホール縫いができません。

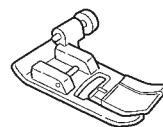
■ ❶～❷を縫っている途中で失敗した場合

1 ボタンホールレバーを手前に戻す。
2 ボタンホール押えを上げ、縫った布地を引き出す。
3 失敗した縫い目を全部ほどく。
（付属のリッパーを使うと便利です。）
4 針から糸を外し、プーリーを１０回転させる。
5 ボタンホールレバーを後方へ押し、スタート／ストップボタンを押し、縫い直す。

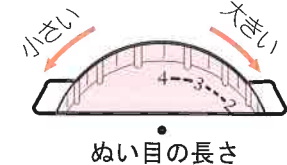
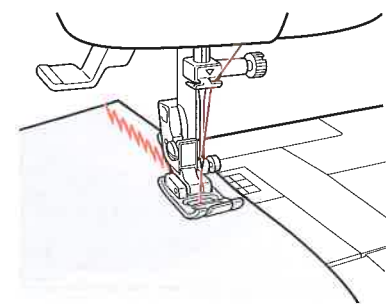
■ ❸～❹を縫っている途中で失敗した場合

1 ボタンホール押えを上げ、縫った布地を引き出す。
2 失敗した縫い目を全部ほどく。
（付属のリッパーを使うと便利です。）
3 ボタンホールレバーを後方へ押し、スタート／ストップボタンを押し、縫い直す。

■ ボタンホールの左右の縫い目長さを調節できます

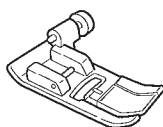
ボタンホール調節つまみ（ミシンの背面にあります）を回すことにより、左右の縫い目長さの違いを調節できます。
ボタンホール調節つまみは硬貨などを使って回してください。

■ボタンホールの左の縫い目が右に比べて粗い場合
ボタンホール調節つまみを ＋ の方向へ回します。

■ボタンホールの右の縫い目が左に比べて粗い場合
ボタンホール調節つまみを － の方向へ回します。

伸縮縫い

伸縮する布地を縫うのに適しています。

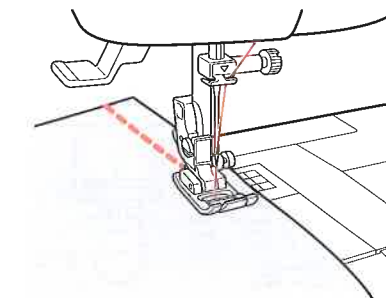
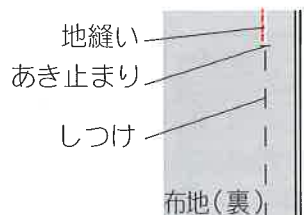
1 ジグザグ押えを取り付ける。

2 模様選択ダイヤルを回し、番号「１２」に合わせる。

3 縫い目長さ調節ダイヤルで、縫い目長さを「４」に合わせる。

4 布地を入れ、押えを下げて縫う。
※布地を伸ばさないように縫います。

強化縫い

縫い目を丈夫にしたいときや伸縮性のある布地を縫うときに適しています。
ジャージなどには、市販のＳＰ針を使用すると目とびがしにくく、きれいに縫えます。

1 ジグザグ押えを取り付ける。

2 模様選択ダイヤルを回し、番号「１３」に合わせる。

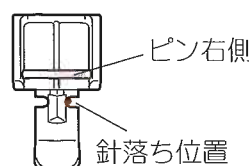
3 縫い目長さ調節ダイヤルで、縫い目長さを「４」に合わせる。

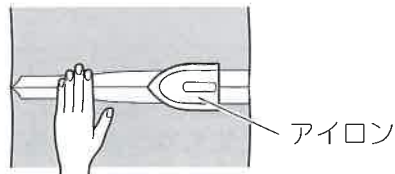
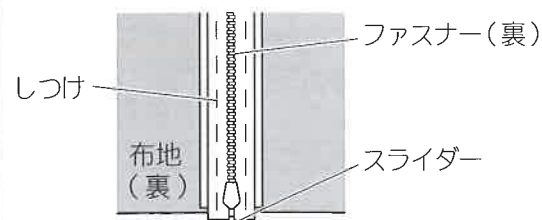
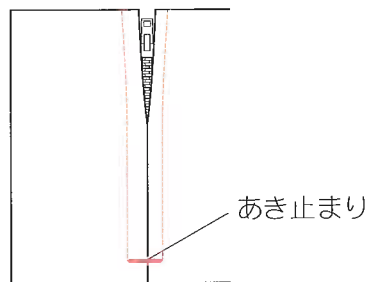
4 布地を入れ、押えを下げて縫う。

ファスナーつけ

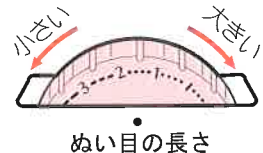
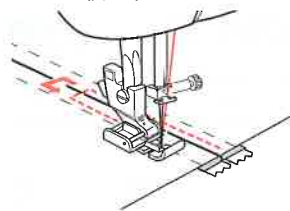
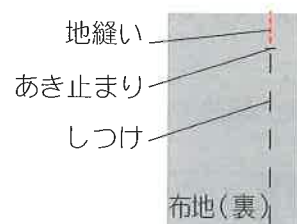
⚠注意

縫うときは、ファスナーとファスナー押えに針が当たらないように注意する。
針が折れ、ケガをする原因になります。

■ つき合わせ縫い
（つき合わせた布地の両方に縫い目が入ります）

1 表どうしを合わせて、あき止まりの位置までジグザグ押えを取り付けて、縫う。

2 あき部分（ファスナーをつける部分）はしつけをする。

3 縫い代を広げ、裏からアイロンをかける。

4 しつけをしたところとファスナーの中央を合わせてしつけをする。
（スライダーは手前に倒します）

5 ファスナーの左側を縫うときは、ファスナー押えの右側のピンを押えホルダーに取り付ける。

6 模様選択ダイヤルを回し、番号「2」に合わせる。

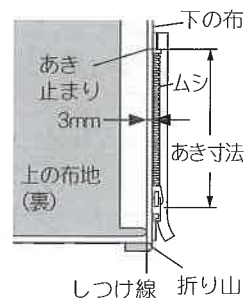
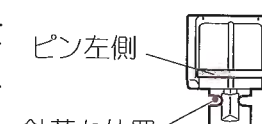
7 縫い目長さ調節ダイヤルで、縫い目長さを「1～2」に合わせる。

8 布地を表にして、布の合わせ目から7～10mm離して縫う。
（右側を縫うときは、左側のピンを押えホルダーに取り付けます）

9 しつけを取る。

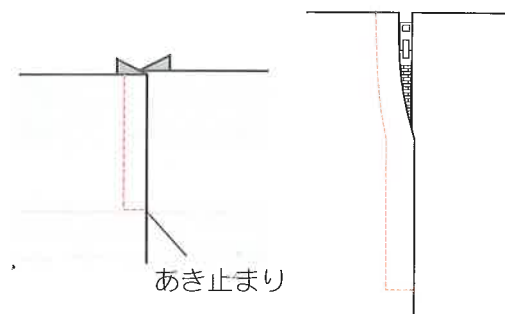
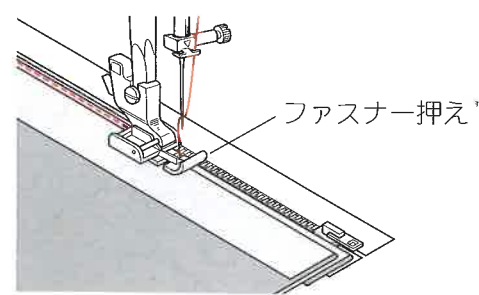
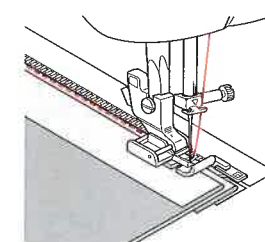
■ 脇あき

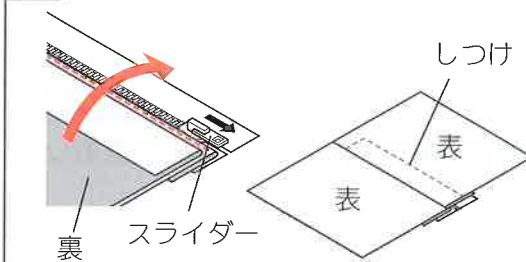
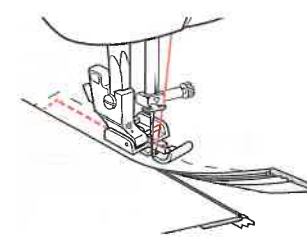
布地の片側に縫い目が入ります。
脇あきや後ろあきのときに使用します。

1 表どうしを合わせて、あき止まりの位置までジグザグ押えを取り付け、縫う。

2 あき部分（ファスナーをつける部分）はしつけをする。

3 縫い代を広げ、右側（ステッチが入らない方）の縫い代を3mm出して折り目を付ける。

4 折り山をムシの端に合わせてしつける。
（スライダーは手前に倒します。）

5 **6** **7** つき合わせ縫い（34ページ）と同じ

8 ファスナー押えの右側をファスナーのムシに沿わせて縫う。
※ファスナーの左側（折り山部分）をあき止まりから縫う。

9 スライダーの手前で一度ミシンを止めて針上下ボタンを押し、針を落とし、押えを上げる。押えの後ろ側にスライダーを移動させ、続きを縫う。

10 ファスナー押えの左側のピンを押えホルダーに取り付ける。

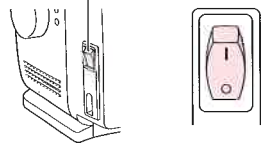
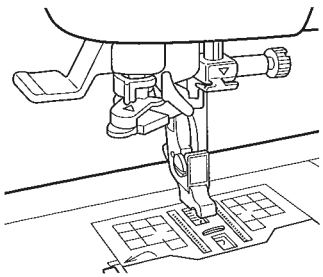
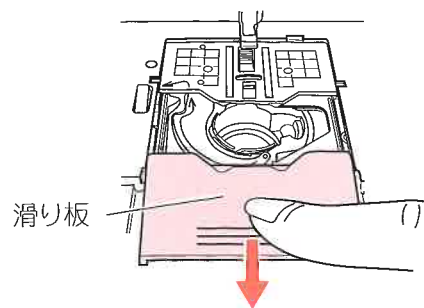
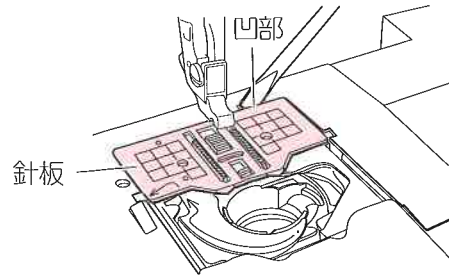
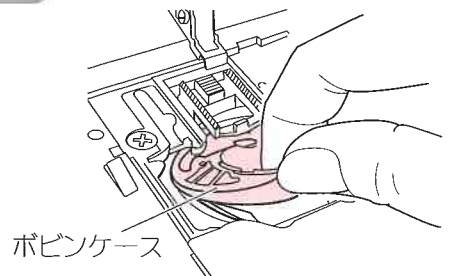
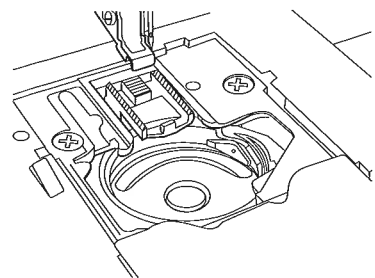
11 ファスナーを閉じて表に返す。

12 あき止まりと右側を縫う。

13 しつけを取る。

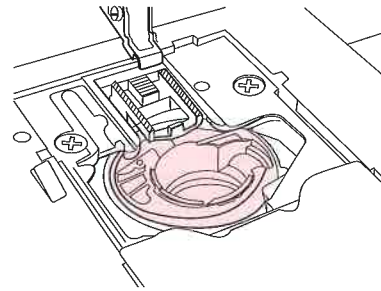
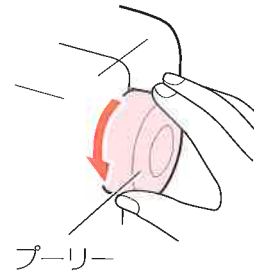
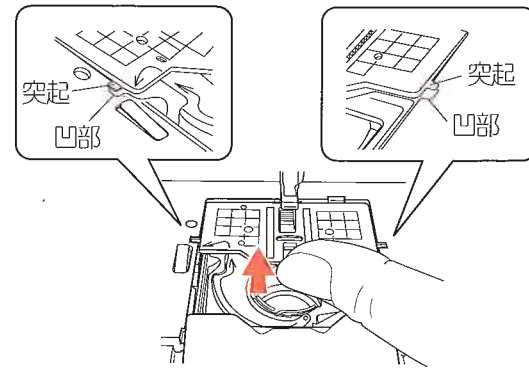
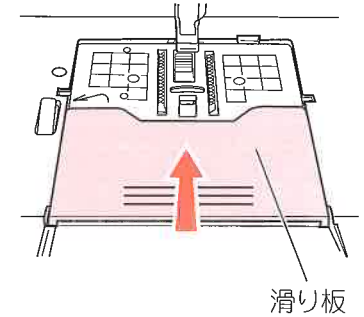
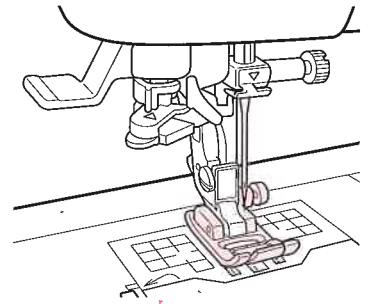
ミシンのお手入れ

本体の汚れは、柔らかい布で、から拭きしてください。
（お願い）住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、化学ぞうきんは使用しないでください。

送り歯とかまのお手入れのしかた
（ボビンケースの外しかた）

ボビンケースやかまに糸がからんだときも、次の順序でボビンケースを外します。

1 電源スイッチの「○」側を押し、電源を切る。

2 針と押えを外す。

3 滑り板を手前に引き、ボビンを取り出す。

4 針板の後部の凹部にドライバーを当て、針板を手前に押し出し針板を持ち上げて外す。

5 ボビンケースを手前に持ち上げて外す。

6 ボビンケースや送り歯、かまについた糸クズ、ほこりなどを取り除く。
※取りにくい糸クズは、掃除機で吸い取るときれいに取れます。

ボビンケースの取り付けかた

1 ボビンケースを元の位置に取り付ける。

2 プーリーを手前に回し、軽く回ることを確認する。
※プーリーが軽く回らないときは、ボビンケースの取り付けをやり直してください。

3 針板左右の突起を本体の凹部にはめ、後方に差し込む。
※奥までしっかり差し込んでください。

4 ボビンを入れ下糸をセットし（１４ページ）滑り板を閉じる。

5 針と押えを取り付ける。

6 プーリーを手前に回し、針が針板の針穴に正しく入ることを確認する。

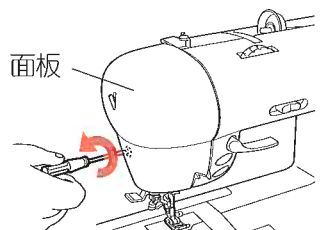
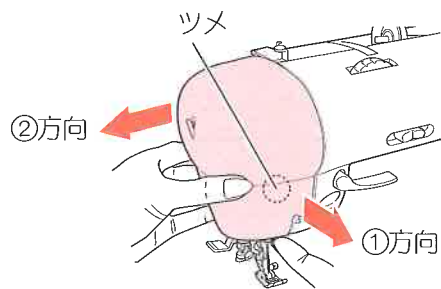
ランプ交換のしかた

⚠注意

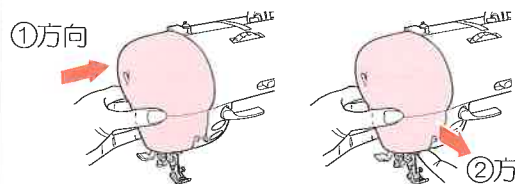
ランプを交換するときは、電源スイッチの「○」側を押して電源を切り、電源プラグを抜き、ランプの熱がさめてから行う。
やけどや感電の原因になります。

ランプはアイシン販売㈱サービスセンターでお買い求めください。
(ランプは「12V 5W T10型」とご指定ください)

1 電源スイッチの「○」側を押し電源を切り、ランプが完全に冷えたことを確認する。

2 お手持ちのプラスドライバーで面板のネジを外す。

3 内部のツメを外すため、面板の下部に指をかけ、手前（①方向）に3 mmほど引きながら矢印（②方向）の方に面板を外す。

4 ランプを下に引き抜く。

5 新しいランプを下側より、カチッと音がするまで差し込む。

6 面板を矢印（①方向）の方から差し込み、取り外したときと同様に面板の下部に指をかけ、手前（②方向）に3 mmほど引きながら面板をはめる。

7 プラスドライバーで面板のネジを締める。

保管方法

保管するときは、次のことに注意してください。故障や変色、破損の原因になります。

- 湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や熱器具の近くに置かないでください。
- 不安定な場所に置かないでください。
- 逆さまや横倒しにして置かないでください。
- 油煙や湯気の当たる場所に置かないでください。

別売品のご案内

ミシンをより広く活用していただくために、種々の別売品をご用意しております。

上送り押え	キルティングガイド
布を上下で送るので、表布／キルト綿／裏布がずれないできれいに縫えます。	キルティングするとき、等間隔で縫うのに便利です。
直線用針板 直線縫い専用の針板です。薄地やステッチかけに便利です。	直線用押え 直線縫い専用の押えです。薄地やステッチかけに便利です。
テフロン押え（樹脂製） ビニールコーティングした布などを縫うときに使うと、布送りがスムーズです。	透明押え（樹脂製） 押えが透明なので、縫い目が見やすくアップリケなどに便利です。
コンシールファスナー押え コンシールファスナーを縫うときに便利です。	三つ巻き押え 布端を三つ巻き縫いします。ハンカチやスカーフなどの端を縫うときに使います。
ダーニング押え 針と一緒に押えが上下しキルティング模様に沿って手で布を送るのに便利です。	フットコントローラー 型式 TM2D・H は標準品として付属されています。

■ 別販品の購入方法

４３ページをご覧ください。

ミシンの調子が悪いとき

(まず次のことを確かめましょう)

次のような場合は故障ではありません。修理を依頼される前に確かめてみましょう。

現象	原因	処置
ミシンが ・回転しない ・動かない	下糸巻軸が右になっている。	下糸巻軸を左に戻す。(13ページ)
	電源プラグがしっかり差し込まれていない。	電源プラグを正しく接続する。(8ページ)
	電源スイッチが「切」になっている。	電源スイッチを入れる。(8ページ)
・音が高い ・回転が遅い	かまや送り歯に糸クズ、ほこりがたまっている。	送り歯とかまの糸クズ、ほこりを取り除く。(36ページ)
・針が折れる	針の取り付けかたが間違っている。	針を正しく取り付ける。(21ページ)
	針止めネジがゆるんでいる。	針止めネジをしっかり締める。(21ページ)
	布地に比べ針が細すぎる。	布地に適した針で縫う。(22ページ)
	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子を弱くする。(25ページ)
	縫い模様に適した押えを使用していない。	縫い模様に適した押えを使用する。(23ページ)
	布地を無理に引張っている。	布地は軽く押える。
・糸通し器で糸通しができない	針が一番上に上がっていない。	針を一番上に上げる。(18ページ)
	9番の針を使用している。	11番～16番の針で使用する。(18ページ)
	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。(21ページ)
	針が曲がっている。	まっすぐな針に交換する。(21ページ)
	糸通し器のフックが曲がっている。	ドライバーなどでフックをまっすぐに直し、糸通しレバーを下げたとき、フックが針穴に通るようにする。(19ページ)
	針棒糸かけに正しく糸がかかっていない。	針棒糸かけに正しく糸をかける。(18ページ)
・布地の表に下糸がたくさん出る	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子を弱くする。(25ページ)
	下糸のセットのしかたが間違っている。	下糸を正しくセットする。(14ページ)
・布地の裏に上糸が出る	上糸の調子が弱すぎる。	上糸の調子を強くする。(25ページ)
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくセットする。(16ページ)

現象	原因	処置
・上糸が切れる	上糸、下糸のセットのしかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくセットする。(14・16ページ)
	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子を弱くする。(25ページ)
	ボビンケースやかまに糸クズがからみついている。	ボビンケースやかまの糸クズを取り除く。(36ページ)
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針に交換する。(21ページ)
	糸に結び目やこぶがある。	結び目やこぶを取り除く。
	針や糸が布地に合っていない。	布地に適した針と糸を使用する。(22ページ)
	専用ボビンを使用していない。	本機専用ボビンを使用する。(2ページ)
・下糸が切れる	下糸のセットのしかたが間違っている。	下糸を正しくセットする。(14ページ)
	専用ボビンを使用していない。	本機専用ボビンを使用する。(2ページ)
	ボビンケースやかまに糸クズがからみついている。	ボビンケースやかまの糸クズを取り除く。(36ページ)
・縫い目が飛ぶ	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。(21ページ)
	針が曲がっている。 針先がつぶれている。	新しい針に交換する。(21ページ)
	針や糸が布地に合っていない。	布地に適した針と糸を使用する。(22ページ)
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくセットする。(16ページ)
・布地がしわになる	上糸の調子が強すぎる。	上糸の調子を弱くする。(25ページ)
	上糸、下糸のセットのしかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくセットする。(14・16ページ)
	針や糸が布地に合っていない。	布地に適した針と糸を使用する。(22ページ)
・布地を送らない	送り歯にほこりがたまっている。	送り歯のほこりを取り除く。(36ページ)
	送り歯が下がっている。	送り歯を上げる。(11ページ)
・布地を逆に送る	ボタンホールレバーが上端まで上がっていない。	ボタンホールレバーを上端まで上げる。(31ページ)
・ボタンホールができない	ボタンホールレバーを下げていない。	ボタンホールレバーを下端まで下げる。(30ページ)
	ボタンホールレバーを後方に押していない。	ボタンホールレバーを後方に押す。(30ページ)
	ボタンホール縫いを途中で失敗したとき、プーリーを10回転させてない。	糸を外し、プーリーを10回転させる。(32ページ)

確かめても直らないときは、ご購入店、または(株)アイシン・リビンダプランナー　サービスセンター
☎：0566−71−3232にご相談ください。

仕様

型式	TM2D・H　TM2D・L
かまタイプ	水平全回転がま
針	家庭用ミシン針（HA－1）
ボビン	トヨタミシン専用ボビン
最大送り量	4mm
最大振り幅	5mm
回転速度	最高：700回転／分 最低：　90回転／分
ミシン重さ	7.9kg
ミシンの本体サイズ	幅　：396mm 奥行：175mm 高さ：315mm
定格電圧	交流100V（ボルト）
定格周波数	50／60Hz（ヘルツ）
定格消費電力	40W（ランプ5W）
電源コード	コードリール式（2m）

保証とアフターサービス

■保証について

お買い求めのミシンは、保証書が付いています。記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げの日から3年間です。

■修理を依頼されるとき

●保証期間中の修理

必ず、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

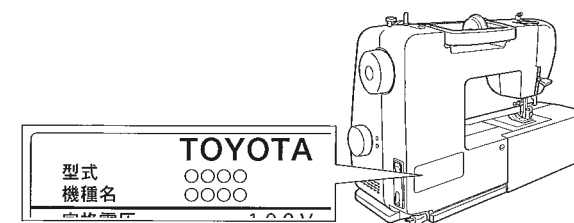
※保証期間内でも有料になることがあります。保証書の記載内容をご確認ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料で修理いたします。

※修理費用は、必要部品代、出張修理の場合は出張費、ミシン送付修理の場合は往復の送料、および別に定める技術料の合計になります。

●連絡していただきたい内容

※郵便番号、ご住所、ご氏名、電話番号
※ミシンの型式、機種名（ミシンの背面のラベルを確認してください）
※お買い上げ日
※故障内容、異常の状況（できるだけ詳しく）

●補修用性能部品の保有期間

ミシンの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。保有期間経過後の修理では、部品がない場合がありますのでご了承願います。

補修用性能部品とは、その製品の性能を維持するために必要な部品です。

●トヨタミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の窓口でも承っておりますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

【お問合せ先】
お客様相談室　0120-24-8640（フリーダイヤル）
受付時間　：　8:30　～　17:30
（土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く）

製造販売元:アイシン精機株式会社
〒448-8650　愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地

679111-AEC10-E